

2月5日
町観光振興計画後期計画案を承認
令和7年度第1回町観光経済戦略会議を開催



（一社）摩周湖観光協会（渡辺隆幸会長）は2月5日、摩周湖観光文化センターで第1回町観光経済戦略会議を開催しました。

町全体で稼ぐための各種指標を定めた町観光振興計画に基づき、観光業の発展に向け町内の経済情勢や課題などを共有。徳永町長をはじめ、町商工会竹森英彦会長や摩周湖農協川口寛組合長、釧路信用金庫吉田信一弟子屈支店長が出席し、観光経済戦略の意思決定などを行う官民連携組織として、令和8～11年度の後期計画案を承認しました。

2月5日
町教育研究事業の年度総括
第2回教育研究大会を開催



町教育研究所（工藤博之所長）は2月5日、令和7年度第2回教育研究大会を弟子屈小学校（佐藤義行校長）で開催しました。

全体集会には町立学校の教職員約70人が集まり事業報告などの年度総括が行われ、教育講演会では（一社）settenの嶋裕香代表理事が登壇しました。講演会終了後は部会ごとに活動反省や要望集約を行い、その結果を部長会議で共有し次年度の展望を協議しました。

工藤所長は「この学びが学校教育の振興と発展に寄与することと信じている。」と話していました。

2月9日
日頃からの防災意識向上を
老人ホーム職員対象の防災訓練を実施



老人ホーム倅和園（丹羽好文園長）と特別養護老人ホーム摩周（高石和恵施設長）の職員を対象とした防災訓練が2月9日、同園で実施されました。

訓練には両施設の職員17人が参加。役場総務課の根本正人防災対策官による講話や、弟子屈消防署の石田克敏救急救助係長によるBCP机上訓練が行われました。机上訓練の内容は、震度6強の内陸型地震発生を想定したもので、参加者はグループごとに災害発生時の対応などについて協議し、防災に対する意識を高めました。

2月6日～9日
新規就農地を探して
3泊4日の酪農体験に参加



2月6日から9日まで、新規就農を目指す30代半ばの夫婦が千葉県から来町し、指導農士である吉田一徳さんの牧場にて酪農体験を行いました。

期間中は町の移住体験プログラムにも参加。新規就農者の牧之瀬佳貴さんと高橋達朗さんの牧場見学も行い、本町を選んだ理由や就農当時の苦労・工夫、現在の状況などについて詳しく聞いていました。3泊4日日程を終えた夫婦は「2つの体験に参加したことで、移住後の生活をイメージすることができた。」と話していました。

2月12日
屈斜路湖周辺のあらゆる調査を実施
玉川大学との共同研究成果報告会を開催



玉川大学（小原一仁学長）との共同研究成果報告会が2月12日、町公民館講堂で行われ、吉備津副町長や岩原教育長をはじめとした約20人の関係者が参加しました。

町では平成21年度から玉川大学との共同研究を開始し、平成27年度には包括連携協定を締結しています。

今回は10人の学生が研究成果を発表。醸造用ブドウ「山幸」の収量・品質、屈斜路湖畔における産卵期のヒメマスの保全やマリゴケの構成種分布などについての報告に、参加者は熱心に耳を傾けていました。

2月10日
冬の運転技能向上に
安全運転講習会を実施



弟子屈警察署（鈴木将人署長）による安全運転講習会が2月10日、町籍別原野の雪堆積場で実施されました。

この訓練は、冬道の危険性や車の機能の限界を知ることによる、安全運転の意識高揚や運転技能向上を目的とし、同署員や消防職員、役場職員などを対象に毎年行っているものです。町をはじめ、標茶町や鶴居村から約50人、車両20台が集結しました。

北海道警察釧路方面本部交通課交通機動隊の石田基第1小隊長は「今後も安全運転に努めていただければ」と講評しました。

1月22日
健全な国保事業の運営に貢献
上枝榮二さんが北海道社会貢献賞を受賞



町国民健康保険運営協議会委員を務めている上枝榮二さんが、令和7年度北海道社会貢献賞（国民健康保険事業功労者）を受賞し、その伝達式が1月22日、町役場で行われました。

上枝さんは約21年間の長きにわたり、国保税や各種医療保険制度に関わる条例の制定や改正の協議などを通し、保険制度の充実や国保事業の推進に従事されてきました。また、地域のスポーツ振興を通じて幅広く健康の推進にも貢献されたなど、数々の功績が認められ、この度の受賞となりました。

カメラスケッチ
広報マンが行く!!
このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐにかけつけます。お気軽にご連絡ください。
※5つくり政策課政策調整係 ☎482-2913 (課直通)

1月27日
流れるだけの川から、地域を育てる川へ
「かわたびほっかいどう」活動報告会の参加を意気込む



1月27日、弟子屈高校2年生の川崎夏輝さんが、2月2日に札幌市で開催される「かわたびほっかいどう」活動報告会への参加を伝えるため、町役場を表敬訪問しました。

昨年8月に釧路川ふれあい広場で開催した釧路川活性化イベント「くしろ川かわまちジャンボリー in 弟子屈」について、主催の（一社）くしろまちづくり研究所の迫田栄重代表理事とともに発表を行います。

同報告会への高校生の参加は初めてで、川崎さんは「大賞を取る気持ちで励みたい。」と意気込みを話しました。

1月27日
園児と高齢者が楽しくボール遊び
川湯保育園と生きがい講座川湯学級生が地域交流



川湯保育園（小林史和園長）と町民小学校生きがい講座川湯学級（高橋美知子学級長）の地域交流学習が1月27日、同園で実施されました。

川湯地区の世代間交流を目的に行われたもので、園児20人が、来園した同学級生11人の皆さんと交流しました。普段から川湯学級生の多くが介護予防運動として取り組んでいる「ガンバルーン」をもとに、3種類のボール遊びを楽しみました。

交流会の終わりには園児によるお礼の出し物も披露され、笑顔あふれる楽しいひとときを過ごしました。

2月4日
町の魅力を収めた力作が勢揃い
第15回弟子屈フォトコンテスト審査会



（一社）摩周湖観光協会（渡辺隆幸会長）主催の第15回弟子屈フォトコンテスト審査会が2月4日、摩周湖観光文化センターで行われました。

今回は「春」、「夏」、「秋」、「冬」、「自由」の5部門に町内外から223点の応募があり、特別審査員を務めた町在住の写真家、水越武さんが最優秀賞を選定。また、関係団体の審査員らが入賞作品を決定しました。渡辺会長は「作品を多くの人目に行き渡らせ、町の魅力を伝えていきたい。」と話していました。

今回は「春」、「夏」、「秋」、「冬」、「自由」の5部門に町内外から223点の応募があり、特別審査員を務めた町在住の写真家、水越武さんが最優秀賞を選定。また、関係団体の審査員らが入賞作品を決定しました。渡辺会長は「作品を多くの人目に行き渡らせ、町の魅力を伝えていきたい。」と話していました。

入賞作品は「弟子屈なび」でご覧ください。

1月29日
雪道での事故を防ぐため
交通安全教室「こぐまクラブ」を実施



川湯保育園（小林史和園長）で1月29日、交通安全教室「こぐまクラブ」が行われました。

こぐまクラブでは年に10回交通安全について学んでおり、今回は雪道の危険性を知るために、グミ人形が車にはねられる様子を間近で見学しました。雪道やそり遊びでの交通事故の実演を目の当たりにした園児たちは、車が入って来ない場所ので決められたルールを守りながら遊ぶことを誓い、交通安全への意識を高めました。